

労働市場のひっ迫が示唆された米雇用統計

ポイント① 米労働市場のひっ迫は継続

5月6日に発表された4月の米雇用統計によれば、非農業部門就業者数は前月比で42.8万人の増加となり、事前の市場予想を僅かに上回る結果となりました。同就業者数の増加幅は前月と変わらず、失業率についても3.6%と前月から横ばいとなり、新型コロナウイルスの流行前である2020年2月の同3.5%に近い水準で推移しています。また平均時給は、前年同月比で5.5%の上昇と、引き続き高い数字を記録しており、労働市場のひっ迫が今もなお続いていることが示唆される結果となりました。

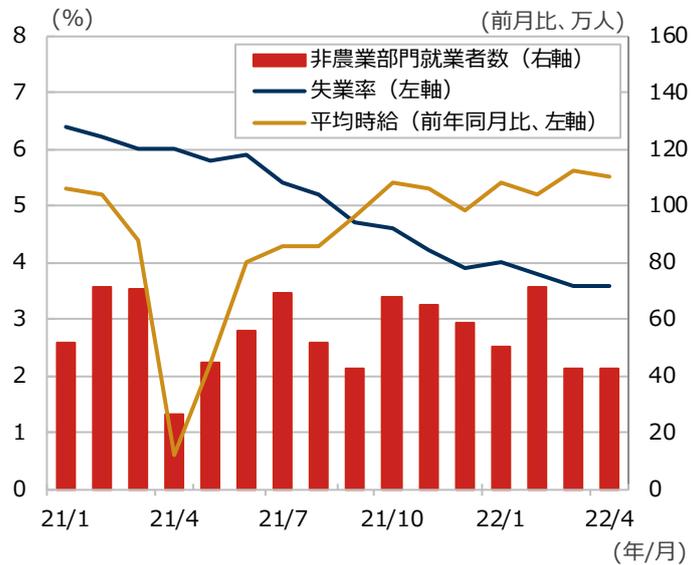
ポイント② 人手不足がさらなる物価高圧力に

項目別では、幅広い業種で雇用増が見られ、娯楽・ホスピタリティをはじめ、製造業、運輸・倉庫などでも増加が顕著となりました。一方で、労働者の職場への帰還は依然不十分で、全体雇用は未だコロナ前の水準以下であり、4月の米ISM（サブライマネジメント協会）景況感指数では、人手不足による供給制約や物価上昇を背景に、景況感の悪化が見られ、労働力不足が深刻さを増している様子も伺えます。人手不足で企業が賃上げを迫られ、コスト上昇を価格に転嫁し、消費者がさらに高い賃金を求める“賃金インフレスパイラル”を危惧する声もあり、労働力不足はインフレの長期化や金融政策を紐解く上でも今後の注目点になりそうです。

ポイント③ FRB、金融引き締め観測は強まる

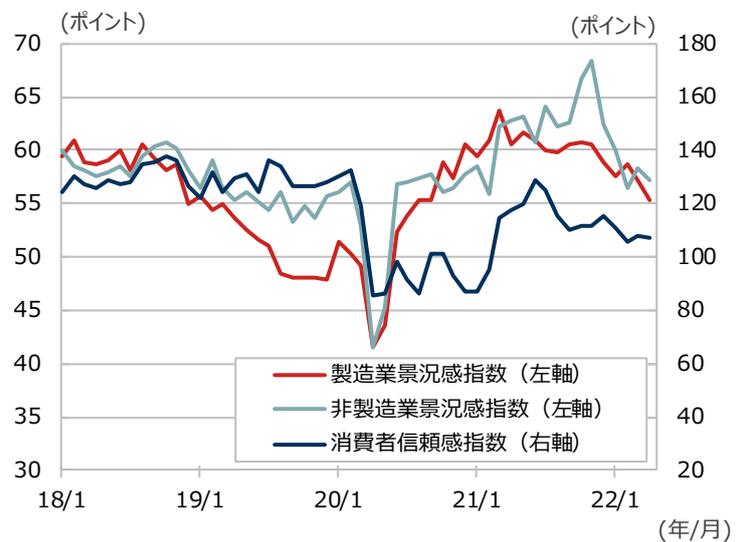
市場では、労働市場のひっ迫が示唆された本統計を受け、「FRB（米連邦準備制度理事会）が速いペースでの金融引き締めを継続する」との観測が強まり、米10年債利回りは前日比で0.09%上昇したほか、円安米ドル高が進行しました。

米失業率・平均時給・
非農業部門就業者数の推移



期間：2021年1月～2022年4月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM景況感指数と
コンファレンスボード消費者信頼感指数の推移



期間：2018年1月～2022年4月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	5月11日	米消費者物価指数 (4月)
	5月17日	米小売売上高、米鉱工業生産指数 (4月)